



JAPANESE SOCIETY FOR INTERNATIONAL NURSING (JSIN)

国際看護研究会 NEWSLETTER No.81 2016



バヌアツの教会での無料健康診断エリアでの血圧測定（IV．海外情報参照）

本号の内容は以下のとおりです。

- I 第 82・83 回運営委員会報告
- II 第 80 回国際看護研究会 講演会報告
- III スタディツアー報告
- IV 海外情報 バヌアツの協力隊活動 その 4
- V 第 81 回国際看護研究会 講演会案内
- VI 国際看護研究会第 19 回学術集会のお知らせ
- VII 皆様へのお願い・お知らせ（事務局より）

※本文に記載されている振込先やメールアドレスについては、現在は使われておりませんのでご注意ください。

I. 第 82・83 回運営委員会報告

国際看護研究会第 82 回運営委員会は 2016 年 1 月 31 日（日）に JICA 地球ひろば（JICA 市ヶ谷ビル）で開催された。会議では、第 18 回学術集会開催報告と第 19 回学術集会準備状況、第 7 回スタディツアー（インドネシア）について報告・協議された。

また、学会化検討ワーキンググループからの報告をもとに学会化の是非について運営委員で議論し、4 月または 7 月の Newsletter 発送時に会員への説明文書及び意向調査を行い、学会化への賛意を得られた場合には 11 月の総会で具体的な会則等を審議することにした。会員への説明文書として、鏡文、会則案、会費案が少なくとも必要であり、ある程度ワーキンググループで作成し、3 月または 6 月の運営委員会で検討することにした。

国際看護研究会第 83 回運営委員会は 2016 年 3 月 12 日（土）に JICA 地球ひろば（JICA 市ヶ谷ビル）で開催された。第 19 回学術集会の準備状況として特別講演とシンポジウムの企画について報告があった。開催が 11 月 26 日と例年より遅いため、演題募集は 7 月の Newsletter に同封する予定である。インドネシアへの第 7 回スタディツアーは 2 月 27 日～3 月 8 日に開催され、全員無事に帰国した。ツアー中スマトラ沖で大地震が発生したが、ツアー開催地とは離れており、ツアー続行に支障はなかった。2015 年決算案について検討し、2016 年予算案については後日会計から提示されることになった。

学会化の意向調査についてワーキンググループで検討した鏡文案、会則案、会計案について記名の有無、返送期限等具体的に検討した。修正したうえでこれらを 4 月の Newsletter に同封して意向調査を行うことで了承された。

その他今後の講演会等について検討が行われた。

II. 第 80 回国際看護研究会講演会報告

国立看護大学校講師 渡邊 香 先生

ベトナムにおける活動と今後の課題－思春期に関する研究活動／助産活動への支援

I. 思春期に関する研究活動

アジアには近年急速に経済発展している国が多くあり、特にベトナムはそれが著しい状況です。このような時期には若者の性行動や性意識が変化しやすく、IT 化が進む中、十分な教育や予防策がないまま、若者が膨大な情報にさらされる環境は危険と言わざるを得ません。

そこで、世界的にも報告のない社会と若者の性意識や性行動との関係を明らかにすることを目的に、ベトナムの高校生を対象に 2012 年 10 月から 3 年間、性意識、性行動、性知識、認知的ソーシャルキャピタルとして社会帰属意識(地域への愛着)を自記式質問紙調査で確認しました。



2012年には首都の2年生1672人に行い、翌年は同じ対象者に、研究者が作製したパンフレットとコンドームを用いて指導を行い、約8週間後に調査を行いました。2014年には、南部のホーチミンの2年生2051人に行いました。2012年の結果、自分は性教育を受け性知識があるというものが多いにもかかわらず、実際に正しい知識を持つものは多くありませんでした。複数の要因を同時に検討した結果、地域への愛着のみが性意識と深く関係し、地域への愛着を持つものには婚前交渉を容認しないものが多い結果でした。性知識やセルフエスティームを性意識の一番の規定要因とする先行知見が否定されました。2013年は、短期的指導では性知識の向上はなく、また学年が変わっても地域への愛着が性意識と最も深い関連がありました。2014年は、文化や風土の異なる南部でも、ハノイ同様、地域への愛着は性意識と最も深い関連を持つ結果でした。



この研究結果の背景には、世界のあらゆる国において、ソーシャルキャピタルを他の要因と同時に検討した報告がないことが挙げられます。またベトナムには、現代も儒教思想の影響があり、結果に影響を及ぼしたと考えられました。しかし、ベトナムでは核家族化や少子化、IT化が進み、若者の意識が変化する可能性があります。その中で、若者が地域との関わりや役割認識を持つ機会をつくり、自己と他者を尊重するよう古くからの教育を継続していく必要もあると考えます。

本研究は、都市部で行ったため、今後は農村部や高校進学しない若者も検討の必要があります。また、日本を含む他国の調査もすることで、思春期の一般的特性の理解に繋がると考えられます。

II. 助産活動への支援 <課題の発見と今後の計画立案への支援>

ベトナムの古都フエを訪問し、助産活動への支援を行いました。

母子保健事情を把握するために、まずベトナム助産師会主要メンバー、フエ地区母子保健行政との会議を行い、次に、コミュニケーションセンターの視察、地域の母子に対して助産師が行う家庭訪問に同行し、母子の状況やニーズを確認しました。そして、現在の課題と今後の取り組みを話し合いました。ベトナムの多くの地域では、妊娠・分娩期の母子保健事情は、「安全」という意味では概ね改善されつつありました。しかし、人口の都市集中化と少子化に伴い分娩の大病院志向が強まり、多くの病院が収容力以上の分娩を抱え、女性のプライバシー保護や満足に十分配慮できない状況となっています。また、



産後の入院室不足が起き、入院中の保健指導や産後の支援体制がなく産褥1日目で母子は退院していました。富裕層の母子は、私費で助産師の家庭訪問を受けています。ベトナムでは、近年全国的に急速な少子化・核家族化が進み、育児への適応や育児技術の習得、異常の早期発見等が母親一人では難しい現状にあります。女性が尊重される快適な分娩とともに、産褥早期をはじめとした産後の支援強化が、今後の重要な課題で

した。

課題の抽出により、助産師が中心となり、富裕層だけでなく地域の全母子を対象に家庭訪問事業を普及させる（中流層には健康管理に出費する価値を理解して利用してもらい、貧困層には少ない負担また

は無料で利用できる仕組みをつくる) ことを検討することになりました。また、助産師が包括的支援をできる家庭訪問スキルを身に付けられるようトレーニングの実施も検討されることになりました。

Ⅲ. スタディツアー報告

群馬大学 医学部保健学科看護学専攻 布施川敦子氏
インドネシア スタディツアーに参加して

以前から国際看護に興味があり、また「学生のうちにさまざまなことを経験して視野を広げておきたい」と思い、今回のスタディツアーに参加しました。初めて日本以外の医療について自分で見聞きすることができ、多くのことを学び、考えさせられるスタディツアーとなりました。その中でいくつか印象に残ったことを書きたいと思います。

ジャカルタで訪れたアルファラー学校は、戸籍を持たない子どもたちのために、ボランティアの方々が自分の仕事の合間に勉強を教えている学校です。「俺の夢」というプロジェクトの一環として、現地ボランティアのシギトさんとリスカさんは子どもたちに日本語を教えています。将来、彼らが日本語を話すことが出来るように教えている訳ではなく、子どもたち自身に自分の夢を考えさせるきっかけにしたいとお話ししてくださいました。シャイな子が多いように感じられましたが、日本語の歌を歌ってくれた時には、大きな声で一生懸命に歌っている姿を見て、この学校が彼らにとってどれだけ大きな存在であるかを知ることが出来ました。またシギトさんの「夢を持っていれば、持ち続けていれば、かなえることができる」という言葉が胸に突き刺さりました。子どもたちの将来のことを第一に考えている姿は、看護職をめざす私にとって、とても刺激になりました。



＜アルファラー学校＞

ジョグジャカルタではさまざまな医療施設・保健施設を訪問しました。プスkesmasと呼ばれるインドネシアの保健所は、日本の保健所とは異なり診察や助産まで行っています。特に高齢者や5歳未満の子どもを対象としているポシアンドゥと呼ばれる保健ポストでは、医療職の他に、ヘルスボランティアワーカーの方々が看護職のお手伝いしているのがとても印象的でした。ポシアンドゥは村ごとに配置されており、医療職ではないヘルスボランティアワーカーが中心となり活動しているため、コミュニティのつながりを強く感じました。病院が近くになくても簡単な医療は身近にうけることができるという点は、地域でのつながりが薄れている日本にとって、ヒントとなるのではないかと思います。



＜ポシアンドゥ＞

Dr. Sardito 病院や Gadjah Mada 大学では 2010 年に起こったムラピ山噴火についてお話を聞かせていただきました。災害時には病院は患者であふれかえってしまったため、大学でも患者を受け入れ、日々の看護ケアを学生が行っていたというのを聞き、すごいなと思ったのと同時に、看護学生である自分も同じことが出来るだろうか、今の自分の知識と技術の乏しさを改めて確認させられました。

ムラピ山の麓に住んでいた被災した村長さんにも当時のお話を聞かせていただきました。「被災してから大変なことももちろんあったが、援助などのおかげで今は生活に困ることなく暮らしているので良かった」と前向きな言葉が印象的でした。今後の予防として、日本のような防災訓練はまだ進んでいないので、そういった体制の面での協力が出るのではないかと思います。たくさんの人のお話を通して、日本もインドネシアと同じ火山噴火や地震、津波などの災害多発大国であるため、災害が起こった時に、被害を最小限にするためにも情報・技術・知識を共有し、共に解決策を考えていくことが重要だと思いました。訪問して自分で見てくるだけで終わりにさせず、インドネシアの医療やさまざまな状況をどうすれば解決できるかまで考えていきたいと思います。

今回のスタディツアーでは国際看護について学ぶことが出来たのはもちろん、モスクや市場、スーパーマーケット、世界遺産などを訪れることで現地の人々の生活や文化にも直接肌で触れ、感じる事が

出来ました。スタディツアーと一緒に参加した先生方の解説や参加した方々の発言から気づいたこと、学んだこともたくさんありました。インドネシア滞在中にスマトラ島で地震が起こった際にも、自分たちがいる状況をどうアセスメントし、どう行動すべきかを教えていただき、災害看護というものにさらに興味がわきました。また、スタディツアー中に出会った人々すべてが、私たちを親切に迎えてくれると同時に、人と人とのつながりがあるから訪問させていただけたのだということ痛感しました。

最後にスタディツアーを企画・引率していただいた伊藤先生をはじめ、ツアー参加者の皆さん、現地ガイドさん、訪問先の方々、そしてこのスタディツアーを紹介してくださった森先生に感謝申し上げます。このような素晴らしい機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。この貴重な体験を将来に活かせるよう、日々努力していきたいと思います。

IV. 海外情報

JICA 青年海外協力隊 26 年度 3 次隊 三塚麻貴氏 バヌアツの協力隊活動 その 4

前回の 1)活動の進捗状況と 2)着任後 1 年時点の活動結果と課題および課題に対する解決案に引き続き、今回は 3)社会的格差に対する所見、4)バヌアツ国の食事についてお伝えします。

3)社会的格差に関する所見

配属先では男尊女卑は見受けられませんが、この村でもその文化はいまだに残っている節があります。健診時にあとから来た何人もの男性が女性の前に平然と割り込む、ヘルスセンターに来た患者さんも女性が男性に順番を譲るという場面も見受けられました。

また、この人口 2300 人程度の村の中でも貧富の差はあります。テレビ付きの 2 階建てに住む海外旅行経験者もいますが、トタンや木を編み上げた家に住み、この島を出たことがないと話す人もいます。ただ、その収入の差によって虐げられたり、引け目を感じたりしている様子は感じられません。また、多くのモノが揃う首都への憧れも薄いように思います。『ここには、食べ物が豊富にある、のんびり過ごせる。首都の人はお金を稼ぐことに躍起になって教会に行くことも忘れる人もいる。ここはいいところだろ。』そんな風に話す人が居ました。一方で、収入を得るためにニュージーランドなど隣国に出稼ぎに行く人もいます。また、お金がかかるから、子供は 2 人で充分という人もいます。ただ、日々接する中で彼らから富に対して貪欲な印象は受けず、高収入を得ることはこの国ではさほど重要視されていない印象を受けます。

4)受入国の食事

バヌアツ人の食事量は、日本人の 2-3 倍はあるのではないかと感じています。朝食は、白湯や紅茶に大さじ 3 程度の砂糖を混ぜ、揚げパンやクラッカーを浸しながら食べる家庭が多いです。昼食・夕食はオーストラリアから輸入したお米におかずをかけるというスタイルが一般的で、日本の丼ぶりをイメー

ジさせます。1回の食事に1人当たり1～1.5合程度のご飯をこんもりとお皿に盛り、その上に揚げ焼きにした牛肉や魚、あるいは汁気の多いおかずが乗ります。おかずは濃い目の味付けであることが多く、ごはんがよくすすみます。そしてそこに、塩ゆでしたバナナやイモ類が副菜かのように添えられワンプレートの完成です。小腹が空くと、庭になっている果樹やピーナッツ、揚げバナナ等を食べたり、



袋麺を外側からつぶし調味料をふりかけスナックのようにして食べたりする光景もよく目にします。

休日やイベント時には伝統料理であるラップラップを作る家庭が多いです。朝からガリガリ音を響かせながら大量のイモとココナッツを削り、バナナの葉で包みココナッツミルクをかけ、熱した石を重ね1～2時間蒸し焼きにします。ふわっとココナッツミルクの匂いをまとい、味は素朴で、それだけでも美味しく食べられます。もちもちと弾力があり、お餅と蒸しパンの中間のような口当たりで腹持ちが良いです。バヌアツ人にとってラップラップとは日本人にとってのお米のようなものだと思います。

【写真は健康ポスター(砂糖の含有量を可視化したもの)です。】

V. 第 81 回国際看護研究会講演会のご案内

【講師】山田智恵里先生（福島県立医大大学院医学研究科）

【日時】2016年6月25日(土) 13時～15時

【会場】JICA市ヶ谷 大会議室

【テーマ】「震災・原発事故後の福島の現状と福島県立医大新大学院」

震災後5年がたち、福島県も復興が進む一方新たな課題も表出しつつあります。現在の様子を簡略報告し、参加者と看護の視点からこれからの進むべき方向を考える時間を共有したいと思います。また、4月より新設される福島県立医大大学院災害・被ばく医療科学共同専攻の概要と国際被ばく公衆衛生看護学講座についてもご紹介します。

VI. 第 19 回国際看護研究会学術集会案内

日時：2016年11月26日（土）

場所：京都市国際交流会館（<http://www.kcif.or.jp/HP/kaikan/top/jp/index.html>）

会長：京都橘大学 河原 宣子 氏

テーマ：「国際看護活動を担う人材の育成に向けて－地球的視野を育む－」

特別講演として「国際看護のこれから」をテーマに前原澄子先生（京都橘大学名誉教授）を、また、国際看護教育についてのシンポジウムも予定しています。一般演題募集は7月15日より開始予定です。詳細は今後 NEWSLETTER やホームページでお知らせしますが、11月の京都は観光客で大変混みますので、早めにホテル予約等をしていただきますようお願い申し上げます。

VII. 皆様へのお願い・お知らせ（事務局より）

<重要>

1. この1年間ワーキンググループを中心に様々な角度から学会化について運営委員会では検討してまいりました。運営委員会報告に記しましたように、本 Newsletter に会員の皆様に学会化に関する意向調査の書類を同封しました。ぜひ皆様のご意見をうかがいたく、回答ハガキのご返送をお願いします。
2. 2016年度会費振込用紙を同封しました。2015年度の会費を未納の方は、2015年度会費とともに、振込みをお願いします。研究会は会員の皆様からお振込頂く年会費により運営されています。納入年度は封筒の宛名の右下に会員番号とともに記載されています。

年会費：一般会員 3,000 円、学生会員（大学院生を含む） 2,000 円

年会費振込先：国際看護研究会 郵便振替口座番号 00150-6-121478

銀行からゆうちょ銀行に振込む場合

店名 〇一九 店 店番 019 預金種目 当座預金 口座番号 0121478

振込用紙の通信欄にご記入いただく内容：

【一般会員の方】・一般会員の□に印を入れ、会員番号、会費の納入年度をご記入ください。

【学生会員の方】・学生会員の□に印を入れ、学校名・学部学科・学年、会員番号、会費の納入年度をご記入ください。

*払込用紙の金額 3,000 円を 2,000 円に修正してご使用ください。

3. 最近 NEWSLETTER が転居先不明で戻ってくる場合が多くなっています。転居された方は研究会事務局 E-mail(kokusaikango@iris.ocn.ne.jp)あてに新住所をご連絡下さい。尚、海外にも NEWSLETTER をお送りしています。
4. NEWSLETTER の「海外情報」に掲載する記事を募集しております。会員の皆様の活動報告、活動国の様子、医療事情、あるいは旅行記など海外に関する情報をお待ちしております。
5. 国際看護研究会 HP トップページへ掲載する写真を随時募集します。会員個人が撮影した写真をキャプション（例えば「フィリピン 助産師の母子健診風景」）付きで研究会メール宛添付し、会員名を掲載してよろしいかどうかを明記の上、お送りください。写真はできれば JPEG で、縮小しないでご提出ください。お送りいただいた時点で、写真の使用を研究会に許可（HP 上のみ）いただいたことになります。

6. 会員の皆様からのご意見を反映して研究会の活動の更なる改善を図りたいと思います。講演会のテーマ、NEWSLETTER についてなど、本研究会へのご意見をお聞かせ下さい。
7. 第 18 回学術集会抄録の残部があります。購入を希望される方は宛先を書いた A4 サイズの封筒と抄録代金 600 円及び郵送料 205 円の合計 805 円分の切手（100 円以下の小額が望ましい）を国際看護研究会事務局にお送りください。第 17 回までの抄録については、お手数ですが事務局にお問い合わせください。

国際看護研究会連絡先（事務局）／NEWSLETTER 発行元

E-mail : kokusaikango@iris.ocn.ne.jp

ホームページ : <http://www.jsin.jp/>

年会費振込先 : 国際看護研究会 郵便振替口座番号 00150-6-121478

ゆうちょ銀行 〇一九店 店番 019 当座預金 口座番号 0121478

※個人名で書かれた原稿内容は研究会の意見を反映するものではありません。また、NEWSLETTER の記事に関して無断転載を禁じます。皆様のご理解をお願いいたします

※前号の講演会回数等の表記に一部誤りがございましたので、ホームページ上で修正をしています。心よりお詫び申し上げます。



国際看護研究会 NEWSLETTER No.81 2016

2016年4月15日発行

無断複写複製不可
